



布施だより

《 みどりの移動市長室 》

2月10日(水)「みどりの移動市長室」が本校で開催されました。市からは当日、加藤市長様はじめ各課の皆様が来校されました。学校からは橋爪駿介さん(生徒会長)・渡利康生さん(副会長)・石川瞳さん(タ)・宮原哉唯斗さん・(校風)緑川璃子さん(給食)・古島悠悟さん(整美)が参加してくれテーマ〈ひとりひとりにとって居心地が良く魅力ある学校創りに向けて〉に沿った意見が交わされたひと時でした。13日(土)の「信濃毎日新聞」にこの日の様子が報道されていました。記事をご紹介します。

～～～長野市は10日、加藤久雄市長が出向いて市民と意見交換する「みどりの移動市長室」を篠ノ井西中学校で開いた。同校の生徒会役員を務める2年生6人が来年度以降の学校運営をテーマに、市長と懇談した。生徒たちは、校内の雰囲気をよくするための考えをそれぞれ発表。古島悠悟さんが「レクリエーションの時間を作るのはどうか」と提案すると、「時間をやりくりしないといけない」「掃除をしない日をつくる」といった意見が出た。加藤市長は「普段から汚さないよう心掛ければ、掃除の時間は短くなる」などと助言した。日頃から取り組んでいるアルミ缶の資源回収については「何に役立つのかをしっかり説明して、やる気をだしてもらおう」との意見もあった。市長は「良いと思うことは思い切って自分からやり始めてほしい」と語り掛けている。生徒会長の橋爪駿介さんは取材に、「今日話し合ったことを今後、他の役員達とも話したい」と話した。～～～



生徒たちは、多くの大人たちに囲まれ緊張の中、屈託なく、おしゃべりをし、会話を楽しんでいてくれました。「活動の先に何かあるのか!」そんな意味を一生懸命に見出そうとしてくれたひと時でした。またひとつ経験を重ねてくれました。

《 学校関係者評価をお伝えします 》



昨年末に保護者アンケート、生徒アンケート、教職員アンケートを行い、その結果を受けて、学校評議員の皆様による学校関係者評価が1月27日(水)に行われました。詳細な分析・考察は校内配布の布施だよりで保護者の皆様にお伝えいたしましたので、この回覧板では学校評議員の皆様からの「全体のまとめ」をお伝えいたします。

- ◇生徒の学習意欲・学力向上・不登校生徒への対応・いじめ等に先生方が課題解決に向かって取り組んでいる印象を受けます。信州型コミュニティスクールも地域の方の協力を得て進んでいることは喜ばしいことと思います。
- ◇地域との関わりについて、諸団体からの要請だけではなく、むしろ学校側からの具体的な検討と発信を望みます。
- ◇こちらから挨拶をして返ってこないことがあります。篠ノ井地区全体で運動を行っているので、あいさつのできる生徒になるよう指導をお願いします。

◇学校内の様子を時々見せていただき、生徒たちが全体的に落ち着いた様子を感じられ、校長先生の指導の下、学習・生徒指導等にきめ細かく、取り組んでおられることが感じられます。地域でも格段の苦情等もなく、落ち着いていることから評価全体にそのことが表れてきています。

◇銀河祭・音楽会・50周年記念式典へ出席させていただいたが、生徒たちの様子が落ち着いているように感じました。音楽会では、上級生になるに従い自信を持ち、下級生は上級生を見習う姿勢が感じられ、好感が持てました。



私たち教職員は学校関係者評価を受け、来る平成28年度の学校運営・教育課程編成に向けて話し合いを重ねています。検討課題と検討内容を4つに絞り、〈 ①西中学校グランドデザインの検討 ◇学校運営の3本柱「柱1～3」・指導の重点「重点1～3」の検討 ②年間計画検討 ◇登校日数206日での授業時数確保のための諸行事、諸会合の見直し ③基礎・基本の学力の確かな定着と「活用する力」の向上に向けて ◇学力向上に向けた学習相談・補充学習の設定（水曜日の午後の日課検討と学習相談の具体） ◇研究の重点、研究組織（授業改善、研究推進、学習評価研修推進）の検討 ④生徒会活動51年目に向けて ◇成就感、達成感の共有のための重点活動 〉現状や課題を探りつつ、新年度に向けて可能性を語る検討会です。

《 地域の方より 》

地域の方より、嬉しいお電話をいただきました。ご紹介いたします。～ ～

雪が降った1月30日（土）の朝、西中の野球部の皆さんが、雪かきをしてくれて大変助かりました。部活動の合間にグランド南側の道路や、雪が片付けられていない箇所を進んで見つけてきれいにしてくれました。1時間、雪を片付けてくれたお陰で、道路が凍結することもなく気持ちよく過ごせています。とっても嬉しかったので電話をしました。生徒の皆さんにくれぐれもよろしくお伝えください。

～ ～ 地域の中で見守り、育てていただいている中学生諸君が、奉仕活動を通じて地域とつながってくれている。そして、その活動を認め生徒に返し伝えようとしてくださる。とかく、社会からの若い人たちへの視線というのは厳しくなりがちなのですが、暖かい言葉と感情を伝えてやることで、若い諸君の感性と行動力はグンと豊かに高まっていきます。私たち大人の一言・一言が若者のしなやかで柔軟な優しさを伸ばす魔法の言葉です。



～ ～ ～ ～ ～

入試直前、3学年諸君の面接試験の面接官役をしていると、受検生の緊張感が直に伝わってきます。お辞儀がぎこちなく、視線も定まらず、言葉に力もなく・・・と強ばりオーラが全身からあふれ出てきます。けれど、何度か一緒に追究の時間を重ねていくと、体の折り曲げ方に、視線や体の向け方に、椅子の座り方に、敬語の使い方に、折り目正しく隅々まで配慮して面接に臨もうとしている受検生ひとりひとりに変わっていきます。受検は団体戦だと言われる所以が、各学級・学年通信からも読み取れます。「テストの花道」「ウルトラ一所懸命」「受験に克つ」等々の言葉や引用が励ましの言葉として並んでいます。生徒だけでなく、先生方も一緒に団体戦に臨んでいます。



そして、この経験を節目に、生徒ひとりひとりが今の自分からジャンプしようとしていることがジンジンと伝わってきます。生徒たちが自分で選んだ高校で、自分で選んだ進路で学びたい・活躍したいという、悩みながらの言葉に気迫が込められ、目に力が入ってくる、その変化に立ち会える喜びに背筋が伸びます。